

## 発刊にあたって

時代は大きな変革期を迎え、超スマート社会（Society5.0）が到来しようとする現代社会において、未来社会が先行き不透明でどんなに複雑化しても、子どもたちには持続可能な社会の創り手となることが期待され、主体的に判断し、様々な人々や社会と関わりながら課題を解決していくための力の育成が求められています。

そこで、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して、学習活動のさらなる充実に向け、これまでに培われてきた様々な工夫と共に、ICTの新たな可能性を指導に生かすことで、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが重要となっています。

北海道教育委員会が令和5年に策定した北海道教育推進計画の施策項目3「新しい時代に必要な資質・能力の育成」の方向性でも ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進め、新しい時代に必要となる資質・能力を育成すること ② ICT等を活用し、発達の段階に応じて、全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることが示されています。

空知教育センターでは、令和4年度から、「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方 ～「個」を生かす「協働的な学び」を取り入れた授業改善～を研究主題と設定した2か年の研究をスタートさせました。

また、研究推進にあたっては、管内小中学校からご推薦いただいた意欲的な教育研究員5名と担当所員により「教育研究推進協議会」を組織し、研究実践を進めてまいりました。2年間、延べ18回にわたる研究では、理論研究・検証授業や研究協議・教育研究事業発表会を行い、研究仮説である「1. 個別最適な学びの過程において、ICT等を効果的に活用することで、自ら学習を調整し、確かな学びにつなげることができるであろう。」「2. 協働的な学びの過程において、ICTや思考ツール等を効果的に活用することで、自己の考えを広げ深め、よりよい学びを生み出すことができるであろう。」これらの検証を進めて参りました。

このたび、2年間の理論研究や検証授業、分析結果、考察や残された課題などをとりまとめたリーフレット「Eduジャーナル」を発刊する運びとなりました。このリーフレットを各学校の校内研修、また、日々の実践の参考資料としていただければ幸いです。

結びに、本研究推進に際して意欲的・献身的に取り組まれた教育研究員の皆様、ご指導・ご助言をいただきました関係市町教育委員会、各学校の皆様にご心より感謝とお礼を申しあげ、発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

令和6年3月

空知教育センター所長 岩城之泰

～目次～

P2～3 「1章『研究の概要』」  
P14～19 「研究団体活動紹介」

P4～12 「2章『研究の内容』」  
P20 「編集後記」

P13 「3章『成果と課題』」

1 研究主題

# 「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方

～「個」を生かす「協働的な学び」を取り入れた授業改善～

2 主題設定について

(1) 主題設定の理由

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会の変化が加速度を増すとともに、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、予測が困難な時代となっている。

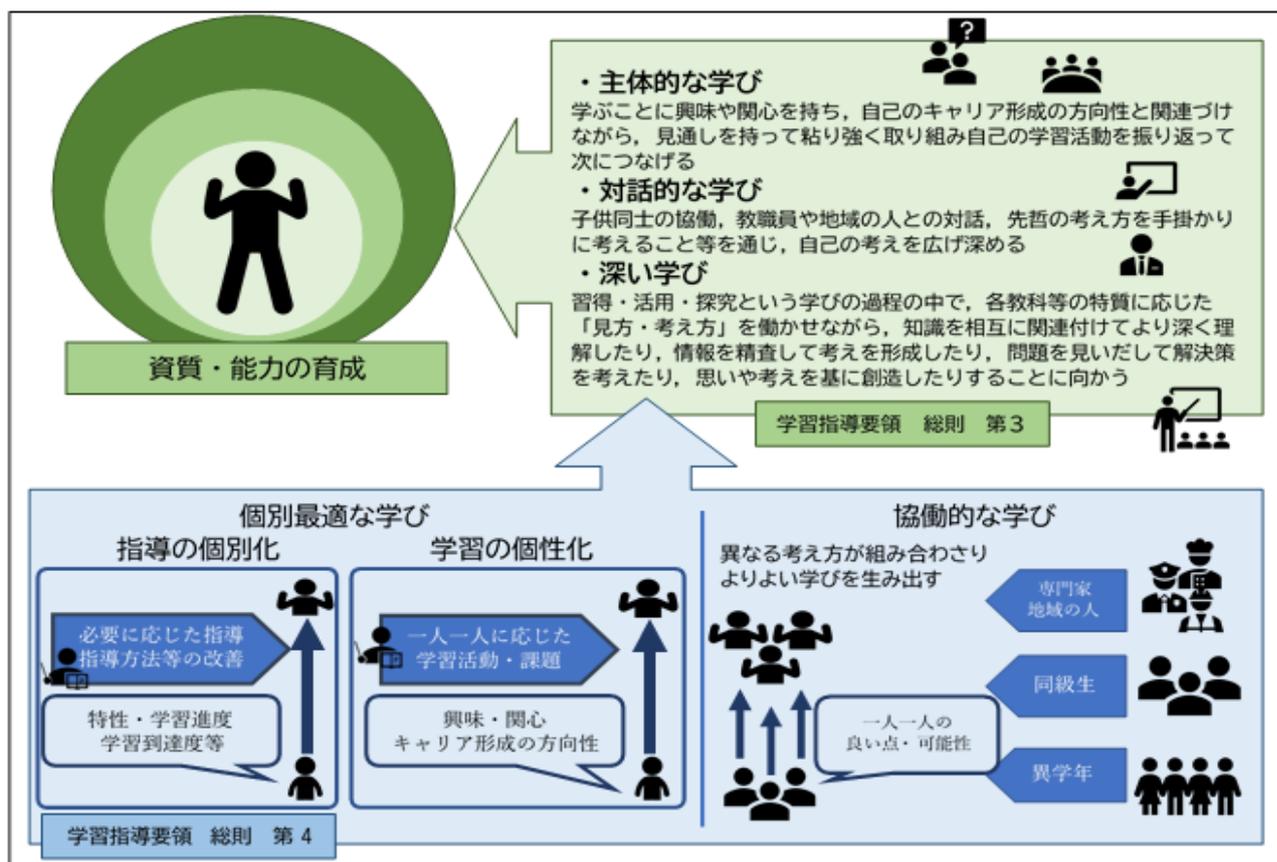
そのため、学校教育においては、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行い、育成する資質・能力を明確にしながらか教育活動の充実を図ることが求められている。

学習指導要領においては、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することを求めている。加えて、「基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、児童や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、児童の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることや、教師間の協力による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実を図ること。」とされており、個に応じた指導の充実が求められている。また、『令和の日本型教育』の構築を目指してでは、「個に応じた指導」を学習者の視点から整理した概念である「個別最適な学び」や、子供同士、あるいは多様な他者と協働しながら必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていく必要性が示されている。GIGA スクール構想により学校の ICT 環境が急速に整備されており、学校教育の基盤的なツールとしての ICT の活用が可能となりつつある。これは、「個に応じた指導」を実現するための非常に有効な手段の一つを新たに得たこととなり、今後はこの新たな ICT 環境を最大限活用し、「個に応じた指導」を充実していくことが重要である。さらに ICT の活用により、子供一人一人が自分のペースを大事にしながら共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動など、「協働的な学び」もまた発展させることができる。

また、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、ICT 活用の視点を盛り込んだ「個別最適な学び」に関する指導事例を収集し、周知することや、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の重要性について、関係者の理解を広げていくことが大切であるとされている。

これらのことから、空知教育センターでは、研究主題を『確かな学力』の育成を図る学習指導の在り方～『個』を生かす『協働的な学び』を取り入れた授業改善～と設定し、今日的な教育課題の解明に寄与するとともに、その成果を管内に還元することを目標に2カ年計画の研究を推進していく。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を通して、「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方を明らかとすることを目指す。

## (2) 主題設定に係わるイメージ図



文部科学省「教育課程部会における審議のまとめ」に基づき空知教育センターが作成したイメージ図

### 3 研究の目的

- ・個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実を図った主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を通して、「確かな学力」の育成を図る学習指導の在り方を明らかとすること。
- ・個別最適な学び及び協働的な学びにおける ICT 等の効果的な活用法について明らかにすること。

### 4 研究仮説

- ・個別最適な学びの過程において、ICT 等を効果的に活用することで、自ら学習を調整し、確かな学びにつなげることができるであろう。
- ・協働的な学びの過程において、ICT や思考ツール等を効果的に活用することで、自己の考えを広げ深め、よりよい学びを生み出すことができるであろう。

### 5 具体的な取り組み

#### 【視点①】学びの過程に係わる取組

- ・個別最適な学び／協働的な学びが充実・発展していたか。
- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が図られていたか。

#### 【視点②】ICT 等の活用に係わる取組

- ・ICT 等を活用することで児童生徒の学びが深まったり、広がったりしていたか。

### 【参考文献・引用文献】

- ・平成 29 年告示 学習指導要領総則 中学校
- ・平成 29 年告示 学習指導要領総則 小学校
- ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～答申
- ・学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和 3 年 3 月版）  
文部科学省初等中等教育局教育課程課
- ・教育課程部会における審議のまとめ 令和 3 年 1 月 25 日 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会

## 第4学年国語科学習指導案

日 時：2023年7月19日(水)第5校時  
場 所：滝川市立東小学校4年2組教室  
児 童：35名  
指導者：水尾 桜子

### 1. 単元名「短歌の世界」

### 2. 単元について

本単元「短歌の世界」は、紹介された短歌を音読し、様子や気持ちを想像しながら言葉のリズムを味わうことを目的としており、ふだんはあまり接することのない言語文化に触れて、そのよさを味わうことができる単元である。単元末では、お気に入りの短歌や自分で作った短歌を入れたオリジナルの「短歌帳」を作るという言語活動を設定する。本学級の児童は、3年生で俳句を学習し、文語調のリズムに親しんでいる。短歌を書く活動をしたこともあるため、困難なく、学習に取り組める児童が多いと考える。しかし一方で、文語調の短歌の作品に触れる活動は初めてであるため、言葉が分からず、難しく感じる児童がいることも予想できる。したがって、本単元の活動にあたっては、リズムや語感を楽しませつつ、使われている言葉の意味や歌にこめられた思いを解説文や写真とも絡めながら丁寧に押さえ、歌の情景や心情を想像できるように支援をしていく。

#### 〈研究とのつながり〉

本時では、想像した情景や心情が表れるような音読をすることを目標としている。どのように音読するかを一人一人が考え、その考えをもとにペアで音読を聞かせ合い、アドバイスをし合う活動を行うことで、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図り、自分の考えの形成・表現をより深めていくことができると考える。音読発表をする際は、ワークシートを写真に撮って教師に送り、全体に画面共有することで、聞く相手に音読のポイントを示しながら音読発表をすることができるようにする。

### 3. 単元の目標と評価規準・指導計画

#### (1)単元の目標

- 短歌のリズムに親しみ、進んで音読や暗唱をしようとする態度を養う。
- 想像した情景や心情が表れるように、声の大きさやリズムを工夫して音読することができる。
- 短歌の5音7音を中心としたリズムを創作することで、国語の美しい響きを感じ取ることができる。

#### (2)評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
短歌の5音7音を中心としたリズムを音読したり、創作したりすることができる。	想像した情景や心情が表れるように、声の大きさやリズムを工夫して音読している。	進んで易しい文語調の短歌を音読したり、暗唱したりするなどし、言葉のリズムを楽しんでいる。

#### (3)単元の指導計画

時	ねらい	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体的
1	五色百人一首で遊び、短歌のリズムやひびきに興味を持たせる。	○	○	◎
2	全文通読をし、それぞれの短歌の特徴・よさを捉える。	◎	○	○
3	(解説文や写真を活用する。様々な人の短歌の音読を聞く。)			
4	情景や心情を思い浮かべながら短歌を音読する。(本時)	○	◎	○

5	お気に入りの短歌を選び、理由とともに短歌帳に記録する。	○	◎	○
6	短歌を創作し、短歌帳を用いて友達と交流する。	◎	○	○

#### 4. 本時案(4/6)

##### (1)本時の目標

○想像した情景や心情が表れるように、声の大きさやリズムを工夫して音読することができる。

##### (2)本時の展開

	児童の学習活動と内容	教師の発問(○)や手立て(・)	視点との関わり・評価(■)
つかむ	1. 前時の学習内容の確認をし、音読練習をする。 2. 本時の課題を確認する。	・短歌のリズムを確認し、音読するよう促す。 ・課題を提示する。	
5分	聞く相手に情景や心情を思いうかべてもらえるような音読をする。		
考える	3. 課題を達成する方法を考える。 ・声の大きさやリズムの工夫。 ・事前に注目ポイントと言う。 ・短歌に動きをつける。 ・画像を見ながら聞いてもらう。 4. 個人どの短歌をどの方法で音読するのかを決め、ワークシートに音読のポイントを書き入れる。	○「この課題を達成するには、どうしたらよいですか。」 ・本時までの学習内容を教室に掲示しておく。(ふりかえり) ・考えが思い浮かばない場合は、ペアで相談するよう促す。 ・教科書を参考にするよう促す。 ・ポイントの書き入れ方を例示する。(ICT) ・発表の仕方を伝える。	■聞く相手に情景や心情を思い浮かべてもらうにはどうしたらよいか考えている。(発言・ワークシート) <b>視点1</b> 個別最適な学びと協働的な学び：自分で考えた短歌の音読の仕方をペアで聞き合うことで、より相手を意識した音読ができる。
深める	5. ペア活動ペアで短歌の音読やポイントを聞かせ合い、アドバイスをし合う。 6. 全体思考 短歌を音読し合い、感想を交流する。(音読をする際は ICT を活用し、教師に送ったワークシートの画面を電子黒板に映す。)	○「聞く相手を意識しながら、短歌の音読練習をしましょう。」 ・机間指導を丁寧に行う。 ○「音読を聞いて、様子が思い浮かびましたか。」 ・音読発表をする際はワークシートを見せながら音読をする、または発表後にワークシートを見せるの内、どちらかを選択させる。 ・子どもの発言からまとめを作る。	<b>視点2</b> ICTの活用：ワークシートを全体に共有しながら音読をすることで、聞く相手に、音読ポイントを示しやすくする。 ■声の大きさやリズムを工夫して音読している。(発表・ワークシート)
ふりかえる	(例)聞く相手に情景や心情を思いうかべてもらうには、声の大きさやリズムを工夫する。		
5分	7. ふりかえりをする ○今日のような音読の工夫は、今後どのような場面で使えそうか、考える。 ○音読をして、音読を聞いて、の感想を書く。	・ワークシートに記入。 ・書けた人から発表させる。	

##### (3)本時の評価

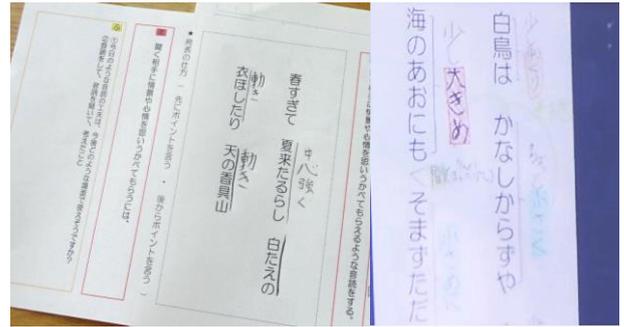
○聞く相手に情景や心情を思い浮かべてもらうにはどうしたらよいか考えている。(発言・ワークシート)

○声の大きさやリズムを工夫して音読している。(発表・ワークシート)

## 授業の様子

### 1 児童が個別に選んだ短歌シートを配布

事前に短歌をどのように工夫して表現するのか、その方法を学習しました。そして、7首ある短歌から自分が情景を伝えたい短歌を、それぞれの児童が選びました。声の大きさ、強弱、読むスピード、間の取り方など、どのような工夫をするかをワークシートに記入しました。



### 2 ペア活動での教え合いや発表練習を通して全体発表への不安を払拭



短歌の情景を伝えるために、自分が工夫した音読ポイントを聞かせ合い、お互いにアドバイスしました。ペアでの発表練習を通して、課題解決に向け、より相手を意識した音読へとつなげることができました。発表への緊張感や不安も軽減し、発表への心の準備を整えることにもつながりました。また、不安な要素をペアの児童と相談することができ、よりよい発表のために、アドバイスをし合うことができていたペアも見られました。

### 3 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

ロイロノートを使って、発表する児童の音読ポイントを写真にとり、大きな画面に表示しました。発表する児童本人が自分のカードを選び、見やすいように全体に表示していました。ICTの特性を生かし、短時間で全員の考えを集約、提示することができました。実際の発表でうまく伝わらなかった部分があっても、音読のポイントを画面で提示することにより視覚的にわかりやすくなり、多様な表現方法を確認することができました。全員の発表はできなかったものの、児童が提出したワークシートの様子からみても、児童それぞれが自分の考えをもって授業に参加できていました。



## 授業反省

### 【成果】

- ・問題や方法の選択が、学ぶ意欲につながっていた。
- ・お互いの刺激が更なる学びへとつながった。
- ・協働的な学習を通して、発表への不安を取り除き、心理的安定へつながった。
- ・視覚的なわかりやすさが、説明の不足を補うことができた。

### 【課題】

- ・協働的な場面での時間配分や、ペアやグループを作ることへの配慮（学力差、適切な人数など）が必要だった。
- ・児童の機器を扱う技量に差がある→どこまでやらせるがよいかの判断が難しい。

# 第1学年外国語科学習指導案

日 時：令和5年9月27日(水)第6校時  
 場 所：深川市立一巳中学校1年B組教室  
 生 徒：35名  
 指導者：菊地 達弥(支援員 久末 水希)

1. 単元名「Unit 6 A Speech about My Brother」 東京書籍
2. 単元について

本単元では、教科書の登場人物がスピーチでフィリピンのセブ島にいる兄の生活ぶりを紹介し、その内容について、友人が質問をして、フィリピンの食べ物についてのやりとりをするという展開である。言語材料として、一般動詞の三人称単数現在形の肯定文、否定文、疑問文とその応答を扱う。いずれも、第三者を紹介する場面で必ず用いられる重要な表現である。また、三人称単数現在形は小学校での取り扱いがなく、中学校で初めて触れる言語材料であり、英語の学習を進めるうえで、つまずきになりやすいものである。自分のことや相手のことを伝える表現を比較し、一般動詞の形の違いに気付かせるとともに、動詞の活用については、繰り返し練習することを通して、表現の理解と定着を促したい。

## 〈研究とのつながり〉

学習指導要領では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせるとは、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築することとされている。それを受け、本単元では、単元末で友人について紹介スピーチをするという言語活動を設定する。相手とコミュニケーションをとることで、伝えたい「内容」とそれを伝えるための「英語表現」の双方を考えさせる。

単元末の活動に向けて、本時では、ペアでインタビューをし合い、そのインタビューでわかったことを英文で表現することを目標とする。その目標の達成のために、「オクリンク」というツールを使用していく。機能としてはロイロノートのようなものであり、作成物を共有したり、編集したりすることができる。そのツールの良さを活用しながら、表現をより確かなものにしていくよう指導する。

そのほかにも本単元では、個別最適な学びの充実を図るために英文の添削アプリ「ginger」や、協働的な学びの充実を図るために友人同士のピアチェック、オクリンクによる共有などを活用していく。

3. 単元の目標と評価規準・指導計画

### (1)単元の目標

○自分と相手以外の人やものなどについて、たずねたり伝えたりすることができる。

### (2)評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	【知識】三人称単数現在形の文の意味を理解している。 【技能】三人称単数現在形の文の理解をもとに、友達などについて、話されるスピーチの内容を聞き取る技能を身に付けている。	家族や身近な人がどのような人かを知るために、その人についてのスピーチなどを聞いて、概要を捉えている。	家族や身近な人がどのような人かを知るために、その人についてのスピーチなどを聞いて概要を捉えようとしている。
読むこと	【知識】三人称単数現在形の文の形・意味を理解している。 【技能】三人称単数現在形の文の理解をもとに、自分と相手以外の人やものなどについて、スピーチや対話を読み取る技能を身に付けている。	家族や身近な人がどのような人かを知るために、その人について、スピーチ原稿などを読んで、概要を捉えている。	家族や身近な人がどのような人かを知るために、その人について、スピーチ原稿などを読んで概要を捉えようとしている。
話すこと 【やりとり】	【知識】三人称単数現在形の文の形・意味・用法を理解している。 【技能】三人称単数現在形の文の理解をもとに、自分と相手以外の人やものなどについて、たずねたり答えたりする技能を身に付けている。	友達のことをほかの友達に知ってもらうために、その人について、簡単な語句や文を用いて、即興でたずねたり答えたりしている。	友達のことをほかの友達に知ってもらうために、その人について、簡単な語句や文を用いて即興でたずねたり答えたりしようとしている。
話すこと 【発表】	【知識】三人称単数現在形の文の形・意味・用法を理解している。 【技能】三人称単数現在形の文の理解をもとに、自分と相手以外の人やものなどについて、話す技能を身に付けている。	友達のことをほかの友達に知ってもらうために、その人について、簡単な語句や文を用いて、即興でまとまりのあるスピーチをしている。	友達のことをほかの友達に知ってもらうために、その人について、簡単な語句や文を用いて即興でまとまりのあるスピーチをしようとしている。
書くこと	【知識】三人称単数現在形の文の形・意味・用法を理解している。 【技能】三人称単数現在形の文の理解をもとに、友達の趣味などについて、わかったことを整理して書く技能を身に付けている。	友達のことをほかの友達に知ってもらうために、その人についての情報を整理して、簡単な語句や文を用いて書いている。	友達のことをほかの友達に知ってもらうために、その人についての情報を整理して、簡単な語句や文を用いて書こうとしている。

(3)単元の指導計画

時	ねらい	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体的
1	単元の見直しをもったうえで、教科書の登場人物の情報について聞き取るようとしている。	○	○	◎
2	本文の読解などを通して、三人称単数現在形の肯定文の形・意味・用法を身に付ける。	◎	○	○
3				
4				
5	本文の読解などを通して、三人称単数現在形の否定文の形・意味・用法を身に付ける。	◎	○	○
6				
7 (本時)	友達などについてのスピーチを聞きとったり、友達の趣味などについてたずね合い、わかったことを整理して書いたりすることができる。	◎	○	○
8	本文の読解などを通して、三人称単数現在形の疑問文の形・意味・用法を身に付ける。	◎	○	○
9				
10	友達のことをほかの友達に知ってもらうために、即興でスピーチをしたり、やりとりしたことを整理して紹介文を書いたりすることができる。	○	◎	◎
11	単元のまとめと振り返り	○	○	◎

4. 本時案(7/11)

(1)本時の目標

○自分と相手以外の人について紹介する英文を書くことができる。(知識・技能)

(2)本時の展開

	生徒の学習活動と内容	教師の発問(○)や手立て(・)	視点との関わり・評価(■)
導入 10分	1. ペアで英文の発音練習。(8分) 2. 本時の課題を確認する。(2分)	・英文が発話しづらそうな生徒に対して、アドバイスをする。 ・課題を提示する。	
	自分と相手以外の人について紹介する英文を書くことができる。		
展開 35分	3. ペアになり、以下の項目についてやり取りをする。(10分) ・年齢 ・住んでいる場所 ・ペット ・趣味(好きなこと) 4. やり取りをして、わかったことをオクリンクを使って、まとめる。(15分) ・やり取りをした相手と英文を考えることも可。 5. 全体交流。(10分) 全体で発表する。	○「この課題を達成するために意識することは何ですか。」 ・友達とやり取りをするときに意識を確認(アイコンタクト、表情、声の大きさ)。 ・ALTとのデモンストレーションを示す。 ○「単元末に向けて、友人のことに分かったことを記録しましょう。」 ・オクリンクを使用させる。  ・生徒の書いた英文から、発表者を決める。 ・生徒の書いた英文から、まとめを作る。	視点1 個別最適な学びと協働的な学び: 友達とのやり取りを通して、わかったことをオクリンクに記録する。 視点2 ICTの活用: オクリンクを通して提出された生徒の作成物を抽出し、発表させる。 ■知識・技能 【努力を要すると判断される生徒への手立て】 ・机間指導 ・生徒同士のピアチェック ・教員・ALTのアドバイス ・アプリ「ginger」の使用
ふりかえり 5分	(例)自分と相手以外の人について紹介するときには動詞にsがついたり、doesを使ったりする。		
	6. ふりかえりをする。(5分) 友達とのやり取りを通して、わかったことや再確認したことについて書く。	・観点を確認してから、記録させる。	

(3)本時の評価

○自分と相手以外の人について紹介するとき使用する言語材料を判断して表現できる。(知識・技能)

## 授業の様子

### ① ペア交流の充実

帯学習として疑問詞を使ったやりとりを授業の始めに行いました。毎時間の積み重ねの成果で自信をもって受け答えをしている様子が見られました。また本時の英文作りの際にも、ペアでのやり取りを通して準備をしました。ただ会話するだけでなく、わからない表現を教え合いながら協働的に学んでいました。お互いに学び合うことで学習に対して意欲的に学ぶ姿が見られました。



### ② 効果的な ICT の活用



取り組む課題をオクリンク上で作成、提出し全体で共有しました。全体に即時的に共有できるので、生徒が作成した英文をすぐに把握することができました。英文をタブレット端末上でタイピングすることで修正することへの抵抗

抗が減り、意欲的に学習に臨んでいる様子が見られました。また、モニター上に教師が作成した例文を提示したり気を付けるポイントを視覚的に提示したりすることで生徒の理解が深まっていました。

### ③ 単元を見通した振り返り

振り返りシートとして、観点別の Can Do リストを単元の始めに配布していました。何を学ぶのかについて明確になっており、自分で何がわかってどのようになったのか考えて振り返ることができました。



1年生 前・後期 英語科 授業計画表・ふりかえりシート Unit 6 前・後期のCan Do	
Listening	身近な人や有名人について、対話やスピーチなどを聞いて、主な内容を聞き取ることができる。
Reading	有名人や身近な話題についての紹介文などを読んで、主な内容を読み取ることができる。
Speaking 【やりとり】	身近な人や有名人について、たずねたり答えたりすることができる。
Speaking 【発表】	身近な人や有名人について、発表することができる。
Writing	身近な人や有名人について、つながりのある文章を書くことができる。
Others	自分と相手以外の人やものなどについて、たずねたり伝えたりすることができる。
	自分と相手以外の人のことについて、どちらの方が、たれのものをたずねたりすることができる。
	知っていること、したいことややるべきことがあることを説明することができる。
Unit 6 単元目標	
	自分と相手以外の人やものなどについて、たずねたり伝えたりすることができる。
	これらの学習で、さらにできるようになりたいことはありますか。
	おなじ目標を達成するために、何かしら勉強することはありますか。

毎時間の授業の最後にふりかえりの時間を設けることで、自らの学びを自覚し、学習内容を定着することができていました。

## 授業反省

### 【成果】

- ・ 学び合いや教え合いによって、学習効果や意欲の向上が見られた。
- ・ 機器の使用に慣れてきたことにより、必要に応じて活用する姿が見られた。

### 【課題】

- ・ 協働的な学びを通して学んだことをさらに個別最適な学習にどうつなげていくか。
- ・ ICT 端末を使う場面と使わない場面での指示や規律をどのようにしていくか。

## 第4学年算数科学習指導案

日 時：令和5年11月7日（火）第6校時

場 所：砂川市立中央小学校4年1組教室

児 童：12名（特別支援児童 内2名）

指導者：西川 潤（支援員 今井 美紀恵）

### 1. 単元名「変わり方」 教育出版

#### 2. 単元について

本単元では、初めに、身のまわりにある数量の変化の様子を示し、「ともなって変わる数を見つけよう！」という発問をきっかけに、増えると増える関係や、増えると減る関係があることに着目していく。そのうえで、18cmのひもを使って何種類の長方形が作れるかを考える場面で、横の長さや縦の長さの数の組に着目し、表、式、グラフを用いながら、横の長さや縦の長さの変化と対応の関係（和が一定）を明らかにしていく。更に、「ほかの伴って変わる数も、変わり方を調べられるかな」という新たな問いを見だし、正方形の厚紙を階段状に並べるときの段の数と周りの長さの関係（積が一定）などについて考察していく。

伴って変わる2つの数量の関係を表や式、グラフを用いて表し、その関係を明らかにする活動では、「一方の数が変わるとそれに伴って、もう一方の数はどのように変わるか」という変化の関係に着目する見方と、「一方の数が決まると、もう一方の数はどのように決まるか」という対応の関係に着目する見方を意識づけ、数量の関係を調べるときの基本的な見方として生かしていけるようにしたい。

#### 〈研究とのつながり〉

本単元では、伴って変わる2つの数量について表やグラフ、○や△を使った式に表す。児童によっては苦手意識を持っているため、毎時間の導入段階で身のまわりの伴って変わる2つの数量についてグラフを見てどのような場面なのかを考える活動を取り入れ、意欲的に学習できるように工夫していく。

個別最適な学びとなるように児童一人一人が表やグラフなどの根拠を元に説明をしたり、支援員と協力をしながらヒントコーナーやヒントカードを提示したりするなど、学習進度や理解度に合わせて学習支援をしていく。協働的な学びとなるようにロイロノートによる課題の提示や考えの共有、振り返りを行い、他の考えを認め合い、自他ともに深め合うように取り組んでいく。

また、発展的な問題にも取り組んでいくことで協力して問題を解いたり、意欲的に学習に取り組んだりできるようにしていきたい。

### 3. 単元の目標と評価規準・指導計画

#### (1)単元の目標

○伴って変わる2つの数量について、変化の様子を表や式、折れ線グラフを用いて表すことができるとともに、それらを用いて変化や対応の特徴を考察する力を身につける。また、その過程を振り返り、関数の考えのよさに気づき生活や学習に活用しようとする態度を養う。

【学習指導要領との関連 A(6)ア(イ)(ウ)、C(1)ア(ア)、C(1)イ(ア)】

<知・技>	<思・判・表>	<態度>
・変化の様子を表や式、折れ線グラフを用いて表したり、変化の特徴をよみ取ったりすることができる。	・伴って変わる2つの数量を見だし、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察している。	・伴って変わる2つの数量について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしていたりしている。

#### (2)単元の指導計画・評価規準

時	ねらい	評価基準		
		知技	思判表	主体的
1	伴って変わる2つの数量の関係を表に表し、変化の特徴を調べ、その関係を式やグラフに表すことができる。	◎	○	○
2		◎	○	○
3	伴って変わる2つの数量の関係を表に表し、変化の特徴を調べ、その関係を式に表すことができる。	◎	○	○
4	伴って変わる2つの数量の関係を式に表し、式をもとに表やグラフに表して変化の特徴を調べることができる。	○	◎	○
5	学習内容の理解を確認し、確実に身につける。	◎	○	○

4. 本時案(4/5)

(1)本時の目標

○伴って変わる2つの数量の関係を式に表し、式をもとに表やグラフに表して変化の特徴を調べることができる。(y=axの関係)

(2)本時の展開

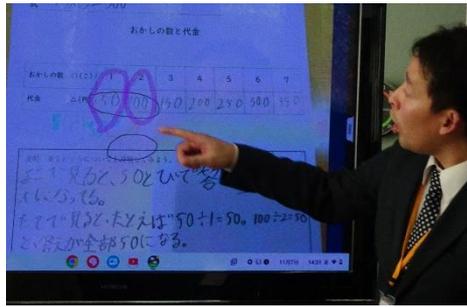
	学習活動と内容	教師の発問(○)や手立て(・)	視点との関わり・評価(■)
導入 8分	<p>1 前時までの確認 グラフを見て、どのような場面のグラフの場面なのかを考える。</p> <p>2 問題把握 1こ30円のおかしを買うときのおかしの数と代金の関係を考えましょう。 式に表すと <math>30 \times \bigcirc = \Delta</math></p>	<p>・問題文にあるキーワード <b>30円</b> <b>おかしの数</b> <b>代金</b> を教科書に囲み、意識させる。 ○この式から表やグラフに表せるかな？ ・どの数が○や△に表すのかを確認していく</p>	<p><b>視点1</b> 個別最適な学びと協働的な学び：導入段階で交流を行うことで、自分の考えを共有しやすい雰囲気を作る。</p>
展開 32分	<p>3 課題把握 式をもとに、表やグラフに表すことができる。</p> <p>4 式・表・グラフで表し、発展問題に向けての見通しを持つ。(一斉指導) ① 表で表す。 ② グラフで表す</p> <p>5 発展問題 (個→グループ→全) 1個50円のおかしを300円分買います。おかしは何個買うことができますでしょうか。 式に表すと <math>50 \times \bigcirc = 300</math></p> <p>・表・グラフのどちらで説明するのかを選択し、問題に取り組む。 ・取り組んだ表し方をクロームブックで写真を撮り、ロイロノートで共有する。 ・同じグループ同士で交流をし、自分の考えについて確認する。</p> <p>6 全体交流 ・まとめた考えを全体で発表する。</p>	<p>・ <math>30 \times 1 = 30</math> <math>30 \times 2 = 60</math> ・ と確認していく。 比例の関係であることを確認する。 <b>一方の値が2倍3倍になるともう一方の値も2倍3倍になる。</b></p> <p>○50円のお菓子を買うことにしたよ。 300円分買うとしたら何個お菓子が買えるかな？ ・式に表すまでは、教師と一緒に取り組む。</p> <p>・ワークシートを配布する ・早く終わった子は、もう一方のやり方も取り組んでみる。</p> <p>・時間があれば共有させたい考え方を取り入れる。</p>	<p>■表やグラフに表し変化の特徴について考察しているか。(思・判・表) ※ワークシート、行動の様子 <b>視点1</b> 個別最適な学びと協働的な学び：自分の考えをワークシートにまとめ、ロイロノートで自分の考えを共有する。 <b>視点2</b> ICTの活用： ロイロノートで自分の考えや学習の振り返りの共有をする。 ■選択した表し方(表、グラフ)についてまとめている。(知・技) ※ワークシート、交流の様子、ロイロノート 【努力を要すると判断される児童への手立て】 ・机間指導、支援員の活用 ・ロイロノートによる考えの共有</p>
ふりかえり 5分	<p>7 まとめ 式に数字を当てはめると表やグラフに表すことができる。</p> <p>8 ふりかえり ロイロノートで学習を振り返る。</p>	<p><b>振り返りの観点</b> ・わかったこと ・友達の考えで良かったこと ・次の学習で頑張りたいこと など</p>	<p>・ロイロノートのアンケート機能にて振り返り、ノートに記述の部分を書く。</p>

(3)本時の評価

○伴って変わる2つの数量の関係を式に表し、式をもとに表やグラフに表して変化の特徴を調べることができたか。

## 授業の様子

### ① ロイロノートを使った交流

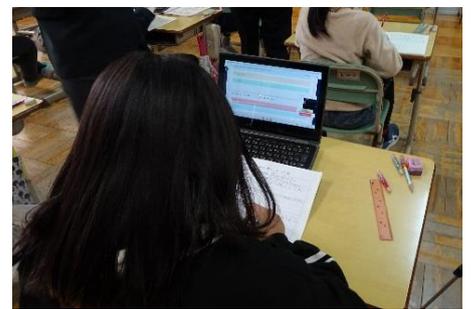
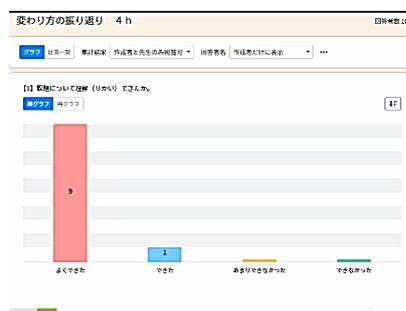


ワークシートやノートに書いたことを写真に撮り、ロイロノートに提出することで学級内の友達の考えを即時的に共有することができました。自分に近い考えを見つけた際には考えを深め、違

う考えを見つけた際には、考えを広げるということをスピード感をもって展開することができました。

### ② ロイロノートによる授業の振り返り(アンケート機能)

授業の振り返りをロイロノートのアンケート機能を使って行いました。これまでは紙で準備して配布していたものを端末1台で行うことで、手軽なフィードバックが可能となりました。子どもたちにとっては何を学んだかがわかり、教師側にと



っては子どもたちの学習の理解度の把握につなげることができる有効な手立てでした。

### ③ デジタルと紙の効果的な併用



教材の提示や交流場面ではタブレット端末を活用する一方、自分の考えを書いたり自分が学んだことを振り返ったりする場面では、ワークシートやノートに書き込みました。自分の考えとして書いたものは、文字として残

し、学びを蓄積していました。どの場面で何を使うことが有効なのか、必要に応じて ICT 機器を活用することができました。

## 授業反省

### 【成果】

- ・常に確認や話し合いができる環境だったので、自信をもって学習に取り組むことができていた。
- ・ワークシートに記入したものを写真で撮影することで説明しやすくなっていた。
- ・ICT 端末とプリント記述のハイブリッドにすることで、必要に応じて端末を活用することができた。また、アンケート機能は手軽にフィードバックできるので有効だった。

### 【課題】

- ・少人数学級の場合、協働学習における交流グループの編成をどのようにしていくと効果的なグループ編成ができるのか（ペア・小集団・全体、学力差・似た考え・違う考え）。
- ・教室にある手書きの掲示物を写真に撮って端末内に入れておくと、既習事項を手軽に振り返る手立てになると感じた。

### 第3章 「研究の成果と課題、次年度に向けて」

#### 1 視点①『個別最適な学び』『協働的な学び』およびその一体的な充実などの学びの過程」に関わって

成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・問題や方法の選択が、それぞれの学ぶ意欲につながることを確認された。</li><li>・学び合いや教え合いにより、お互いに刺激を与え、学習効果や意欲の向上を見ることができた。</li><li>・周りの友達との交流を通して、学習や発表に対する不安を取り除き、心理的安定につながる姿が見られた。</li><li>・自分の考えをもつことに困り感を持っている児童・生徒には、友達の考えを共有できる場を作ることに、思考の喚起を促すことができた。</li><li>・個人思考をする時間を確保することで、学びが深まる様子が見られた。</li><li>・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで、学びの深まりが見られた。</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・時間配分や、ペアや集団の組み合わせの難しさが見られた。</li><li>・作業スピードや、理解度の差への対応が必要な場面があった。</li><li>・授業内で「個別最適な学び」と「協働的な学び」を取り入れるバランスや、「どこまで求めるか」の判断が難しかった。</li><li>・「協働的な学び」を通して学んだことを、さらに「個別最適な学び」へ生かしていけるようにするための手立てがあると良かった。</li></ul>

#### 2 視点②「効果的な ICT の活用」に関わって

成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・視覚的なわかりやすさが、思考や説明の不足を補う場面が多々見られた。</li><li>・視覚的に相手との考えを比較することができた。</li><li>・画面共有によって、友達の良さや自分の改善点・修正点への気づきがあった。</li><li>・機器の使用に慣れたことで、必要に応じて機器を活用しようとする姿が見られた。</li><li>・課題の配布、集約、児童・生徒同士の交流などが容易にできるようになったことで、授業が効果的に進められるようになった。</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・効果的な活用場面や、どこまで活用させるかの判断の難しさがあった。</li><li>・教科書・ノートの使用と ICT 機器使用のバランスや、効果的な場面の見極めが必要である。</li><li>・指導者も使用者も、機器やアプリの使い方への習熟や慣れが必要である。</li><li>・使う場面と使わない場面の規律やメリハリが必要である。</li><li>・机上の物が多くなることや、視点移動が増えることを苦手とする児童・生徒に対する配慮が必要である。</li></ul>

#### 3 次年度に向けて

**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させた授業や学習指導の在り方について明らかにする。**

**ICTの効果的な活用場面について明らかにする。**

授業場面に応じて、児童・生徒が主体的に活用。



様々な学習場面において、方法や各種ソフトなどを**目的に応じて選択・活用**して問題を解決できる。



**実践・検証から効果的な実践例を増やし、発信していく。**

# 空知へき地・複式教育研究連盟

委員長 古畑 聡子(深川市立北新小学校校長)

## 1 本連盟について

本連盟は、今年度の研究主題を

「主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成」

～児童生徒一人一人が仲間とつながり、

地域とともに「生きる力」を伸ばす学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

として研究を推進し、令和5年11月8日には、第43回空知へき地・複式教育研究大会 砂川大会を参集参加とオンライン参加のハイブリッド形式で実施しました。開催の会場校の砂川市立北光小学校では、児童が自ら考えをもてるように具体物を提示したり、自分の考えをまとめる場面等でICTを活用したりするなど、児童が主体的・協働的に学ぶ第3・4学年の複式の授業を公開し、会員一人一人が自身の授業改善に向け、切磋琢磨に学ぶことができました。

## 2 研究大会を終えての成果と課題

グループ協議において出席者から出された意見や校内研修における反省の内容をまとめ、砂川市立北光小学校における今後の校内研修に生かすようにしました。

### ○ 成果

- ・考えをまとめる活動においては、学習内容や児童の実態を考慮したうえで、ICT機器やホワイトボード、ワークシートを選択することで、児童個々の解決方法の幅が広がり、より効果的な交流・多面的多角的な理解につながる事が明らかになった。
- ・ノートにまとめたものをロイロノートなどで画像化することで、その後の交流や学びの積み重ねにもなる。各学年で継続的に取り組むことで、系統的な指導となる。
- ・発表内容の精選においては、情報の取捨選択が重要となる。国語科の学習内容も踏まえながら、教科のつながりを意識した指導が必要である。
- ・学習前後の児童アンケートや振り返りの活用が、児童にとって授業が効果的だったかどうかを判断できる材料となる。

### ● 課題

- ・考えを表現する取組における理論づくりと授業実践の積み重ねを今後も継続する必要がある。
- ・主体的な学びを創り出す学習過程の構築に向けた取組が必要である。
- ・ICT機器を活用した授業実践を積み重ね、表現力を高め合う取組を模索していく必要がある。
- ・令和8年度の学校統合に向け、授業づくりの共通理解と改善を重ねる必要がある。

## 3 おわりに

本連盟に加盟している学校は、それぞれへき地級が異なり、単式校から完全複式校まで様々です。その中で、各学校の教職員一人一人の力量向上に向けた研修等を模索しながら取組を推進してきました。しかし、今後、空知管内では、統廃合が進むことにより、加盟する支部の減少が見込まれています。

今こそ本連盟の役割を見つめ直し、へき地・複式教育の充実のため、各支部からの協力を得ながら、着実に前へと進めていきたいと考えています。

# 空知社会科教育研究会

## ◀今年度の主な活動▶

- 9月22日(金) 公開授業
- 10月24日(火) 空知教育センター「社会科教育研修講座」開催
- 11月24日(金) 第78回北海道社会科教育研究大会札幌大会 参加 【地理的分野 責任提案】

## ライブ配信での授業公開

9月22日(金)、岩見沢市立光陵中学校・福井雄也教諭による「地理的分野・世界の諸地域-アジア州-」の導入単元の公開授業を行いました。今回は、「子どもと創る授業」＝「共に考え、共に行動し、共に成果を得る、獲得した知識をつないで解を生み出す授業」という定義のもと、さまざまな仕掛けを取り入れながら、アジア州の多様な側面に触れ、“ものの見方・考え方を鍛える”授業を展開しました。ライブ配信の形での公開とした結果、10人以上の先生方がリアルタイムで視聴、授業の都合でかなわなかった先生方もアーカイブで確認したり、意見交流できたりと、一定の成果が得られました。



## 空知教育センター提携事業

10月24日(火)に空知教育センターとの提携事業として、社会科教育研修講座を実施しました。①美瑛市立美瑛中学校・鹿糠昌弘教頭による「地域素材を生かした授業実践」について ②岩見沢市立光陵中学校・福井雄也教諭による「現在の社会科で求められる授業づくり」について の2本立てで講座を行い、これからの空知を担う社会科の先生方と議論する中で、**<炭鉄港を題材とした身近な教材開発や取組の可能性>****<社会科の授業における“問い”の生み出し方>**など新たな視点で考えを深める機会にできました。また、小学校の先生方と中学校の先生方が悩みを共有する場としても、非常に有意義な機会と感じたので、次年度以降も内容をさらに充実させながら、先生方同士のつながりを大事にした取組を行っていければと考えています。



## 北海道社会科教育研究大会 札幌大会

11月24日(金)、「第78回北海道社会科教育研究大会 札幌大会」にて、各分野別・学年別に分かれた会場にて公開授業および研究協議に参加しました。また、空知地区は、代表して、地理的分野の部会において「責任提案」を行い、各地区の先生方からアドバイスをいただきました。先進的研究に刺激を受け、日々の実践に生かせる内容もたくさんありました。

現在、当研究会は、会員数減もあり、こうした実践も含め、満足のいく活動ができていませんが、『**学びを止めない空知**』を掲げ、「**地域素材の活用**」「**授業づくり**」に関して、研究を継続しています。ぜひ、社会科教育について情報共有・交流できる仲間づくりのため、また、指導法や教材のイロハについてお困りの方もぜひ、**会長・有村（夕張市立ゆうばり小・校長） / 事務局・福井（岩見沢市立光陵中・教諭）**までお問い合わせください。

# 空知国際理解教育研究協議会

わたしたちは、2つの目標をもって活動しています。

- ① 「各教科」・「総合的な学習の時間」・「外国語活動」を通して児童に異文化理解や多元的な価値観を尊重し合う態度など、国際的な感覚・視野を持つ児童・生徒の育成を目指します。
- ② 在外施設派遣（日本人学校、補習校等）や青年海外協力隊を希望する人や興味がある人の願いをかなえるべく在外派遣の目的や主旨を学んだり、在外派遣での経験や実践を伝えたり交流したりします。

## 【定期的な集まり】

### ① 6月 帰国報告会

空知教育センターと連携し、在外派遣施設（日本人学校、補習校等）から帰国からされた先生による発表を行っています。  
令和5年度は上砂川町立中央小、戸井一貴教諭による、サウジアラビアのリヤド日本人学校での実践発表を行いました。



### ② 11月 授業公開、実践発表

空知教育センターと連携し、国際理解教育、SDGs等を意識した授業公開、実践発表を毎年行っています。  
令和5年度は滝川市立第二小学校、板本 諒教諭による道徳の公開授業、砂川市立北光小学校、佐々木知成教諭によるスリランカのお茶にまつわる実践発表を行いました。



### ③ 2月 空知国際理解教育研究協議会総会・冬季研修会

今年度の活動を振り返り、次年度に向けて話し合います。



## 【その他の事業】

### 北海道国際理解教育研究大会への参加

毎年、全道各地で行われる全道大会に希望者が参加したり会として参加したりします。

### JICA 札幌での派遣研修会

在外派遣についての研修会に希望者が参加したり、帰国後の報告を行ったりします。

国際理解教育、外国語教育、在外派遣等に興味のある方は下記までご連絡ください。

会長	小泉 寧	南幌町立南幌中学校	校長
副会長	悪七 広仁	美唄市立東中学校	校長
	桐渕 則行	岩見沢市立清園中学校	校長
事務局	柏木 哲也	岩見沢市立メープル小学校	教頭
	小林 正男	深川市立一已小学校	教諭
研究部長	佐々木知成	砂川市立北光小学校	教諭
組織部長	大野 紘	深川市立一已小学校	教諭
広報部長	戸井 一貴	上砂川町立中央小学校	教諭
事務局長	鈴木 一朗	岩見沢市立岩見沢小学校	教諭

令和6年2月末現在

# 空知英語教育研究会 活動報告

## 研究テーマ

「主体的・対話的で深い学びの外国語～英語科における言語活動を通して～」

### 1. 第43回 全空知英語暗唱大会

日時：令和5年11月2日（木）10時～15時

場所：深川市経済センター

今回の大会には、空知管内の中学校（2，3年生）から昨年度をはるかに上回る24名の生徒が参加しました。当日は、日頃の練習の成果を存分に発揮し、素晴らしいパフォーマンスを披露していました。本大会上位2名の生徒は札幌で行われる全道大会へ出場しました。

### 2. 第41回 空知英語教育研究大会

日時：令和5年11月10日（金）11時～16時

場所：深川市立深川中学校

授業者：西方 英希（深川市立深川中学校 教諭）

講師：柏 敬太（北海道教育大学附属札幌中学校 教諭）

空知管内小中高の英語教育交流の場、また諸先生方の研鑽を積む機会となるよう毎年開催させていただいております。今年度は、北海道教育大学附属札幌中学校の柏敬太先生を講師にお招きし、「思考力・判断力・表現力」を高める実践例や、評価の在り方などとても盛沢山な内容のご講演をしていただきました。来年度も「第42回 空知英語教育研究大会」を開催させていただきますので興味のある方はぜひご参加ください。

また本会の活動に興味のある方は下記までご連絡ください。

会長	木内 一樹	砂川市立砂川小学校	校長
副会長	櫻井 貴幸	月形町立月形中学校	教頭
事務局長	伊藤 祐	深川市立深川中学校	教諭

# 空情報教育研究サークル「つたえーる」

代表 三浦泰幸

空知の若手を中心に、情報教育について学ぶ「つたえーる」は、今年度で結成5年目を終える。今年度は、研修の在り方を模索する1年となった。月に1度の定例会を中心に、今年度から「ovice」というメタバースのソフトを活用し、これまでのテレビ会議システムを使用した研修よりもシームレスに活動を行うことができた。

～活動の概要～

## 1 授業改善の取り組み

今年度は、サークルメンバーの2名が鳴門教育大学の藤村裕一教授に指導をしていただき、生活科、社会科の授業を行った。授業に向けては、探究的な学びをつくるためのフローチャート式の学習指導案を作成し、複線化する児童の思考を軸に、授業を組み立て実践した。

## 2 全国大会での発表

10月には、青森で行われた第49回全日本教育工学研究協議会（JAET）全国大会で「遠隔地を結ぶ授業研究と研修モデルの開発ーメタバースを活用した授業研究のあり方ー」というテーマで研究発表を行った。メタバースを活用しながら研究を進める「つたえーる」の取り組みを全国に向けて発信した。

## 3 視察・還流報告

道外の学校視察として、今年度は愛知県にある瀬戸 SOLAN 小学校の研究大会に参加した。還流報告では、「習得-活用-探究」の授業デザイン、それを支える学習環境という視点で学び、メンバーへの還流を行った。

また、JAET 全国大会で行われた青森県六ヶ所村の小学校二校の研究会にも参加し、「令和の日本型学校教育の実現」に向けた ICT の効果的な活用を含んだ包括的な視点での授業改善について学び、メンバーへの還流を行った。



## 4 サークル内研修

定例会での実践発表や授業作りの実践交流だけでなく、金城学院大学の長谷川元洋教授を講師として、「デジタルシティズンシップ教育と情報モラル教育の相違点と共通点」というテーマで学習会を行った。

## 5 空知教育センター講座・研修

空知教育センターでの夏季・冬季講座では、Canva、ロイロノート、Padlet などの GIGA スクールで活用できるソフトウェアを軸に、授業改善に向けたブース研修をハイブリット形式で行った。また、南空知の養護教諭を対象に Google フォーム、スプレッドシートの活用についての研修会を行った。

「つたえーる」では若手を中心に情報教育について学び、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的で対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んでいます。関心をお持ちの方は、深川市立深川小学校の三浦までご連絡ください。

([miura.yasuyuki@ed.city.fukagawa.hokkaido.jp](mailto:miura.yasuyuki@ed.city.fukagawa.hokkaido.jp))



# 令和5年度 空知道德教育研究会 活動報告

## 1. 総会・授業研究会（6月）

期 日	令和 5年 6月21日（水）
会 場	新十津川町立新十津川中学校
<b>【 令和5年度空知道德教育研究会総会 】</b>	
今年度の活動方針や予算、役員体制等について協議・決定しました。	
<b>【 令和5年度空知道德教育研究会授業研究会 】</b>	
□ 授 業 者：原田 陽子（空知道德教育研究会・新十津川町立新十津川中学校）	
□ 児童生徒：新十津川町立新十津川中学校2年B組24名	
□ 内容項目：優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。	

## 2. 夏季研修会（8月）

期 日	令和5年 8月 4日（金）
会 場	砂川市立北光小学校 図書室
<b>【 講義「今日的な課題・地域性等を生かした道德教育」 】</b>	
□ 講 師：西藤 秀美（空知道德教育研究会・岩見沢市立栗沢中学校）	
□ 講義内容：	
➢ 栗沢町は、今年度より併設型の小中一貫教育をスタートさせており、道德教育についても重点目標の達成を目指し、各教科等との関連を図りながら小中一貫のカリキュラムを編成している。	
➢ 特色ある取組である「地域連携カリキュラム」においても、道德教育との関連を図りながら、PTA・CS・地位学校協働本部と連携した取組を推進している。	
<b>【 演習「授業づくりの演習」 】</b>	
□ 授 業 者：田中 彩子（滝川市立滝川第一小学校）	
□ 演習内容：	
➢ 11月15日に行われる空知教育センター講座での公開授業に関わり、授業者である田中先生による模擬授業を行った。	
➢ その後、本時のねらいを達成するための「資料」や「資料の活用方法」、価値を自覚し深く追求するための「指導方法の工夫」や「思考ツールの活用」等について研究協議を行った。	

## 3. 空知道德教育研究会研究大会・空知教育センター研修講座（11月）

期 日	令和 5年11月15日（水）
会 場	滝川市立滝川第一小学校
<b>【 研究授業公開・研究協議 】</b>	
□ 授 業 者：田中 彩子（空知道德教育研究会・滝川市立滝川第一小学校）	
□ 児童生徒：滝川市立滝川第一小学校3年1組30名	
□ 主 題 名：「自分らしさをのばして」<A（4）個性の伸長>	
□ 教 材 名：『自分らしさってなんだろう』（はばたこう明日へ【教育出版】）	
□ ※参考資料『グラジオラスの轍』（FNNプライムオンライン【フジテレビ】）	
□ ね ら い：白井健三さんの“自分らしさ”に対する考え方を知り、話し合うことをとおして、それぞれに外面的ばかりでない、内面的な自分らしさがあることに気づき、自分らしさを伸ばしていこうとする心情を育てる。	
<b>【 講 義 】</b>	
□ 講 師：長尾 孝明（空知道德教育研究会・砂川市立北光小学校）	
□ 講義テーマ：「心を紡ぐ」道德教育の実践 ～生き方を追求する児童生徒の育成～	
□ 主な内容	
① 考え議論する道德	
・ 考え議論する道德①：「主体的・対話的で深い学び」との関連	
・ 考え議論する道德②：道德科の目標との関連	
・ 考え議論する道德③：これまでの道德の時間の授業における反省点	
② 道德科における「主体的・対話的で深い学び」を実現する学習指導過程	
・ 指導過程の工夫 ・ 指導方法の工夫	
③ 道德科と豊かな体験活動の有機的な関連を図るカリキュラムマネジメント	
・ 道德教育の重点的指導：量的重点化、質的重点化、各教育活動との関連	



## ◆ 研修講座のひとコマ ◆



R5.6.20 「学校経営①（教頭職）」



R5.7.25 「授業での ICT 活用」



R5.7.28 「特別支援教育」



R5.9.7 「学級経営」



R5.11.10 「学校事務」



R5.11.16 「SDG s 教育」

## ◆ 編集後記 ◆

令和5年度 空知教育センター 教育研究推進協議会の構成員紹介

協議会会長 : 西川 潤 (砂川市立中央小学校)

教育研究員 : 菊地 達 弥 (深川市立一已中学校) 水尾 桜子 (滝川市立東小学校)

教育センター所員 : 松岡 英一 高田 裕美 清水 淳巨

松岡 英一 (砂川市立砂川小学校)

今年度も管内各校の先生方のお力をお借りして、研修・研究を進めておくことができ、大変感謝しております。次年度以降も、教育センターでの事業が空知の教育や先生方に少しでも貢献できるよう、頑張ってまいります。

高田 裕美 (滝川市立明苑中学校)

初めてで不慣れな作業も多かったのですが、各先生方のご協力のお陰で、研修・研究事業を進めることができました。本当にありがとうございました。ここでの学びや経験を周囲に発信していけるよう力を尽くしたいです。

清水 淳巨 (新十津川町立新十津川小学校)

先生方の先進的な実践を目の当たりにし、日々の研修の大切さを改めて感じました。大変貴重な経験をさせていただき感謝しております。ここで学んだことを各所に還元し、今後の教育に生かしていきたいと思っております。

## 空知教育センター教育研究情報誌 “Edu ジャーナル 2024”

発行日 令和6年3月30日

発行者 空知教育センター所長 岩城 之泰

発行所 北海道滝川市文京町4丁目1番1号

Tel. 0125-22-1371 Fax. 0125-22-1372

E-mail [kyosen@sorachi-ed.jp](mailto:kyosen@sorachi-ed.jp) URL <http://sorachi-ed.jp>

印刷所 (有)田中タイプ印刷(滝川市朝日町東2丁目3番15号)

